

鋼構造物製作のタカノエンジニア

サンポールがグループ化

旗ポール・車止めのトップメーカー、サンポール(本社・広島市、山根令社長)は、ステンレス鋼構造物などを製作するタカノエンジニアリング(広島市)をグループ化した。サンポールホールディングス(同市、同社長)が8月28日付で全株式を取得。今後は両社の特徴を生かし、既存取引先でのニーズの深掘りなどを図る。

手すりなどニーズ深掘り

タカノエンジニアリングは1983年創業。ステンレス鋼の加工を得意とし、工場、プラント向けのらせん階段や梯子、手すりのほか、橋梁、水道施設などの点検用通路とい

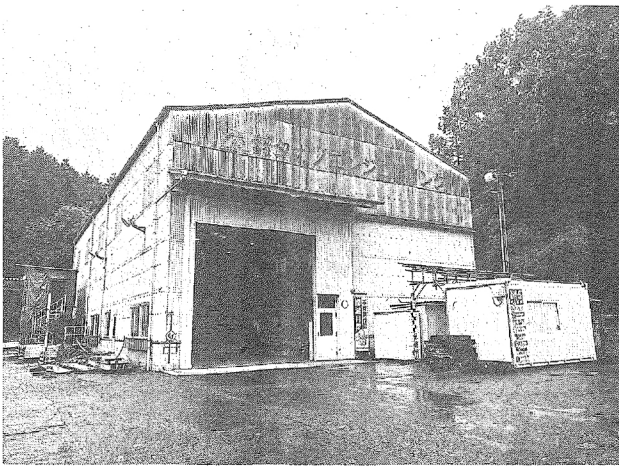
った鋼構造物を製作する。高速道路の床版取替工事の安全対策に寄与する自社製品「KANAME(カナメ)」（特許取得）のリースも手掛ける。広島県北広島町に製造拠点の豊平事

業所を置き、約5000平方メートルの敷地に建築面積約6000平方メートルの工場を構える。建屋内にはバンドソーや鋼管用の曲げ加工機、複数台の溶接機を置く。25年7月期の売上高は1億4000万円。従業員数は6人。

高い溶接技術を持ち安定した受注を確保しているものの、後継者が不在だったことから、金融機関を通じて昨年11月からM&Aに向けて話を進めていた。従業員や事業内容に変更はなく、高野靖彦社長は代表権を持たない会長に就き、社長にはサンポールの松本淳取締役営業管理部長が就任した。

サンポールは23年10月にホールディングス体制に移行した。将来的な事業の多角化を見据え、国内外でのM&Aや新規事業参入などに柔軟に対応できる体制を整えた。

の製造・販売を手掛ける一方、タカノエンジニアリングはオーダーメイド製作を主力としており、中には手すりといった共通した製造品もある。両社取引先のニーズの深掘りをそれぞれ行い、まずはタカノエンジニアリングの今期(26年9月期)売上高を2億円に引き上げる。今後は「タカノエンジニアリングとしての自社製品も増やしていきたい」（松本社長）考え。



タカノエンジニアリングの工場外観